

モンゴルにおけるEBUSを中心とした呼吸器内視鏡の普及および技術向上 3年計画の3年目

- 1.目的:モンゴル国の呼吸器診療の基幹病院において、超音波気管支鏡(EBUS)をはじめとする呼吸器内視鏡を導入し、それらを用いた診断技術を医師・看護師が習得できるよう、技術支援を行う。
- 2.概要:EBUSは肺癌の診断に不可欠な診断方法として確立されており、日本国内外で広く用いられている。モンゴルでの普及を目指して、モンゴル国立第一病院をはじめとする呼吸器診療の基幹病院の医師・看護師に対して、NCGMでの3週間の呼吸器内視鏡に関する研修を実施する。またNCGM呼吸器内科医師等を主として国立第一病院に派遣し、EBUSを用いた安定した手技実施を補助する。
- 3.成果・着地点:世界標準の気管支鏡手技が普及することでモンゴルの呼吸器疾患を持つ患者に健康利益をおよぼす。医療保険への組み入れなどを経てモンゴル国内の主要病院にEBUSが導入され、安定的に手技が実施される。また、国立第一病院やモンゴル呼吸器学会が主導し、新規にEBUSを導入する病院への自立的な教育体制を構築する。

